

あしがき

3年目を迎えた宇都宮大学HANDSプロジェクト（正式名称：文部科学省特別経費プロジェクト「グローバル化社会に対応する人材養成と地域貢献－多文化共生社会実現に向けた外国人児童生徒教育・グローバル教育の推進－」）の成果の一つとして、『中学教科単語帳』（日本語⇔ポルトガル語）をお届けします。『中学教科単語帳』（日本語⇔タイ語、日本語⇔スペイン語）に次ぐ単語帳の第三弾となります。コーディネーターの船山千恵さんを中心に、4名の翻訳者の協力を得て完成することが出来ました。

これらの単語帳が、日本の学校に在籍している外国籍および日本語を母語としない子どもたち、外国人学校に通う子どもたち、本国に帰国した子どもたち及び子どもたちに向き合う先生方はじめ様々な関係者に役立つことを願っています。

今年は、外国人児童生徒教育問題に関心が高い学生と一緒に、外国人学校を訪問するとともに、関係者からの聞き取りを結構精力的に行ってきました。9月以降、訪問した外国人学校は以下の通りです。

SEBS「ソシエダ・エドウカシオナル・ブラジリアン・スクール」（栃木県おたわらし市）、MUNDO DE ALEGRIA「ムンド・デ・アレグリア」（静岡県浜松市）、Escola Alegria de Saber「エスコーラ・アレグリア・デ・サベール」豊田校（愛知県豊田市、豊田校以外に、豊橋、浜松、碧南、鈴鹿に学校がある）、Institute Educare「インストイトゥート・エドウカレ」（茨城県つくば市）。

また、昨日（12月10日）ですが、東京にある三井物産を訪問し、環境・社会貢献部社会貢献室の方と国際社会貢献センター（ABIC）の方にお会いしてきました。三井物産は、2005年より「ブラジル人子弟支援プロジェクト」を開始しました。国際社会貢献センター（ABIC）が実施業務を受託してい

ます。主な活動としては、ブラジル人学校への教材寄贈や奨学金の供与、在日ブラジル人学校教員養成のための通信教育への支援、カエルプロジェクトなどがあります。また、今月上旬には茨城県常総市にある茨城県就労・就学サポートセンターを訪問してきました。このほか、学生が東京にある「荒井商事株式会社」(2009年から、ブラジルの炭酸飲料ガラナ アンタルチカの売り上げをブラジル人学校に寄付している)を訪問しました。

これらの活動を通じて強く感じたことは、経営が厳しい中で外国人学校の関係者は子どもたちの教育に情熱をもって取り組んでいること、そして、外国人学校への支援活動に取り組んでいる企業(人)やNPOの方も少なくないということです。

HANDSは、平成25年度以降も文科省の特別経費プロジェクトとして、事業を継続させていく見込みが立ちました。HANDSで継続的にお世話になってきた方や今年出会えた人たちの顔を思い浮かべながら、HANDSの新しい展開に向けて様々な思いを巡らしています。今後ともどうぞよろしく願いたします。

宇都宮大学HANDSプロジェクト研究代表

国際学部 田巻松雄